

中心人物はだれだ？中心人物になりきって手紙を書こう

指導者 川本 美紀子

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

C (1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。

(1) 単元観

本単元では、物語の中で起こる中心となる人物の気持ちの大きな変化をその理由を想像しながら読む力を付けることをねらいとしている。そのために、本単元では、中心となる人物「のぶよ」の気持ちがいつ、どうして、どのように変化したのかを考えさせる。そして、最後に、読み取ったことを基に、のぶよから弟、お母さんに対して手紙を書き、それを読み合う活動を設定する。自分の考えを友達に伝えるためには、各自が中心となる人物の気持ちの変化とその理由について考えることが必要になる。また、考えを伝え合うことで一人一人の感じ方の違いに気付くことができると考える。

本教材は、時間の経過に沿って物語が展開し、場面の移り変わりをとらえやすい。また、中心となる人物の気持ちが心内語で表されている部分が多く、そのときどきの人物の気持ちがつかみやすい。したがって、人物の気持ちの変化をとらえる学習に取り組む児童にとって、適した教材といえる。また、運動会という題材は、児童にとって身近な内容であり、自分の体験とも関連付けて素直な感想を伝え合うことができる教材である。

読み取りでは、はじめの「のぶよ」と終わりの「のぶよ」を比較させたり、弟やお母さんの気持ちを合わせて考えさせたりすることを通して、その変化の理由を考えさせたい。

(2) 児童観

4年生になって、読書の幅も広がり、推薦図書を中心に意欲的に読書をする姿が見られる。「物語の学習が好きですか。」の質問に対して、24名の児童が好きと答えている。

4月教材「こわれた千の楽器」において、会話文に着目して登場人物の気持ちを読み取り、音読に表す学習をした。会話文以外の叙述から友達の意見を聞き、自分の音読に生かしている児童は24名である。しかし、物語を読むときに、中心人物は誰なのかを考えながら読んだり、その人物の変化やその理由に着目して読み取ったりするまでには至っていない。

思考力・表現力の実態

「自分の考えを書くことが好きか」という問いには、24名の児童が好きと答えた。しかし、「自分の考えを話すことができるか」という問いに対しては、10名の児童が苦手だと答えた。自分の考えを書くことはできても、それを話すことが十分でないといえる。児童のこのような意識を変えていくためには、自分の考えを書くだけでなく、話す場を多く仕組み、相手の反応に合わせてさらに、発言を付け加えたり、自分の考えを深めていったりする活動を多く仕組む必要がある。

表現力については、自分で読み取った内容と自分の経験や友達の考えを関連付けてまとめたり、表現したりすることに課題がある。

(3) 指導観

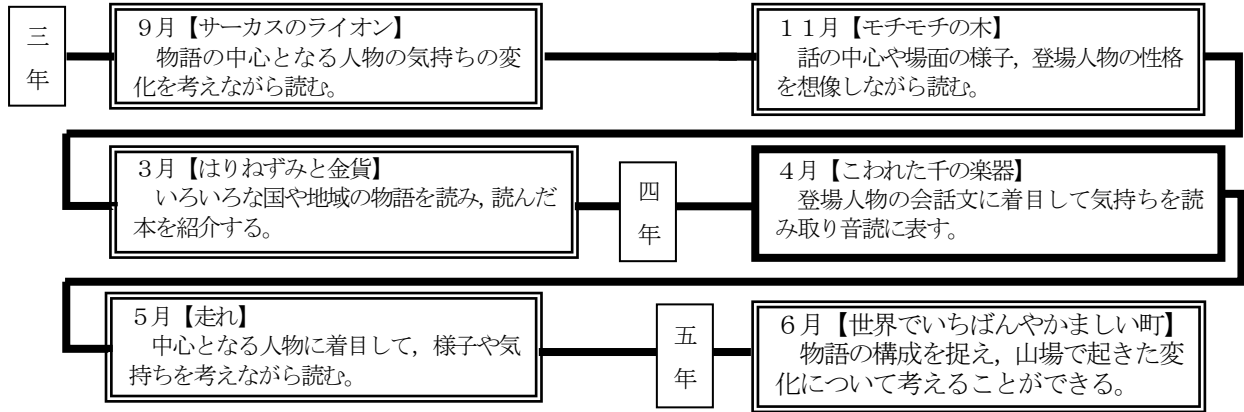
この物語の中心となる人物は「のぶよ」であるが、児童の中には「けんじ」と感じる児童が多くいると予想される。そのため、「中心人物はだれか」という問いを児童に投げかけ、それを解決するために、けんじとのぶよのグループに分けてそれぞれの人物の気持ちを追わせながら読み取りを行う。中心となる人物は、最初と最後に最も大きく気持ちが変わった人物であるということから、児童は、登場人物の気持ちの変化に着目して読み取っていく。それぞれのグループでは、叙述からわかる人物の気持ちをふせんに書きながら場面ごとに整理していく。そして、グループで整理したことを交流し、比較することで、中心人物「のぶよ」の気持ちの変化の大きさに気付かせる。

また、「どうして、びりなののにのぶよはほこらしく感じたのか」という問いを投げかけ、のぶよの気持ちの変化の理由を考えさせる。その際にも、グループで話す時間を設定し、自分の考えを話すとともに、さらに深められるようにしたい。

2 単元でめざす児童の姿

- 中心人物の変化とその理由を基に、手紙を書き、友達を感想を交流しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 中心となる人物の気持ちの変化の理由を、叙述を基に想像して読んでいる。(読むこと)

3 領域「読解」の系統



4 単元の評価規準

| | 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|---------|--------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 単元の評価規準 | 中心となる人物の気持ちの変化を基に、手紙を書こうとしている。 | 叙述を基に、中心となる人物の気持ちの変化とその理由を想像して読んでいる。 | 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて読んでいる。 |

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、児童に「中心人物になって手紙を書こう」という問いを投げかける。中心人物とはだれか解決するための方法を考えさせる。中心人物だけでなく、対人物の心情を追わせる中で、中心人物の気持ちの変化を読み取らせていく。中心となる人物の気持ちの変化とその理由を、叙述に基づいた自分の読み方や読みの根拠となる考えを交流して、課題発見・解決力（スキル）を育成することができると思う。

6 指導計画（全9時間）

| 次 | 学習活動 | 評価規準 (評価方法) | 資質能力の評価 (評価方法) |
|---|--|--|--|
| 一 | 課題の設定 教材分を読んで感想を交流する。 中心人物はだれか、「チェンジングポイントを見つけよう」という課題を持つ。(1) | どうすれば解決できるか、解決方法を考えようとしている。 【関・意・態】(行動観察) | 学習問題に対する解決方法を考えている。 (行動観察) |
| 二 | 情報の収集 整理・分析 場面分けをし、教材文の構造分析をして、あらすじを書く。(1) 「のぶよ」「弟」「お母ちゃん」のグループに分かれ、それぞれの気持ちを叙述を基に読み取る。(3) 「のぶよ」と「弟」の気持ちの変化の大きさについて話し合う(1) 中心人物となる「のぶよ」の気持ちの変化について話し合う。 (1)(本時 7/9) | 3つの場面に分け、あらすじを短い文でまとめている。 【読む】(ノート) 中心となる人物の気持ちの変化を説明できる叙述を探しながら読んでいる。 【読む】(ノート・発言) | |
| 三 | まとめ・創造・表現 「のぶよ」から「けんじ」「お母ちゃん」にあてて手紙を書き、交流する。(1) | 叙述から読み取った登場人物の気持ちの変化を基に手紙を書いている。 【読む・言語】(手紙) | 中心となる人物の気持ちの変化を読み取るために行った情報収集の方法や場面と場面とを関連付けて読んだ思考方法について振り返っている。 |
| 四 | ふりかえり 学習方法についてふりかえる。(1) | 中心となる人物の見つけ方、その気持ちの変化を読み取る方法について振り返っている。 【関・意・態】(行動観察、ノート) | (ノート・行動観察) |

7 本時の展開

(1) 本時の目標

「のぶよ」の気持ちがどの場面のどこで大きく変化したのか、どのように変化したのか、なぜ変化したのかについて考えることができる。

(2) 観点別評価規準

場面の移り変わりに注意しながら、物語全体を通して、中心となる人物の気持ちの変化とその理由に着目して読んでいる。

【読むこと】

(3) 学習の展開

| 学習活動 | 指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆） | 評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） |
|--|---|---|
| 1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 中心となる人物「のぶよ」と児童のアンケートの違いから、本時のめあてを提示する。 | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">「ラストという言葉が、こんなにほこらしく聞こえた」のはなぜか。</div> | | |
| 2 前時までに読み取ったのぶよ気持ちから、1場面と3場面の変化の理由について自分の考えを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> 1場面の「心の中はぐしょぐしょだった」と3場面の「ほこらしく聞こえた」を比べ、どこで、どうして変わったのか、これまで整理したものをもとに考えさせる。 ふせんに、変わったと思う叙述とそのときの気持ち、そう考えた理由を書かせる。 | <p>○ 場面と場面を関連付けて、文章中の語や表現について着目して読み取ることができる。</p> <p>【読む】（ノート）</p> |
| 3 グループで交流したことを全体で話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> グループで考えを交流させて全体で話し合う。 意見を発表させながら、グループを再構成し、何度も交流させて全体の話合いを深めていく。 | |
| 4 のぶよの変化から感じたことを話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 何が「ほこらし」かったのかを問い、のぶよの変化から感じたことを出し合う。 | |
| 5 振り返りと次時の確認をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 振り返りでは、グループでの話合いや全体での意見交流、物語の読み方についても書かせる。 次時では、これまでの学習を基に中心人物になって手紙を書くことを確かめる。 | <p>★ 自分の考えを他者と交流することを通して、考えの多様性に気付く。</p> <p>（ノート）</p> |

4-1 国語科

「走れ」

(中心の発問) 「ラストという言葉が、こんなにほこらしく聞こえた」のはなぜか。

叙述

【1 場面】

- ①足のおそいのぶよには、ゆううつな日だった。
- ②けんじをなくさめると、その後始まる、びりまちがいなしの自分の短きより走のことで、心の中はぐしょぐしょだった。思い出さたくない思い出。

【2 場面】

- ③わりばしを拾うと、ぎゅっとにぎって、けんじを追いかけた。
- ④だまって、わりばしを見せた。

【3 場面】

- ⑤お母ちゃん、ショックだったろうな。でも、けんじもさみしくて……。わたしだって本当は……。
- ⑥体がどんどん重くなる。
- ⑦体が後ろへ下がっていく。
- ⑧あ、もう走れない。
- ⑨ふいにせなかに、二つの声がかぶさった。
- ⑩「姉ちゃん、行けっ!」
「のぶよ、行けっ!」
- ⑪思わず、ぎゅんと足が出た。
- ⑫「走れ! そのまんま、走れ!」
- ⑬おしりが、すわっと軽くなる。
- ⑭体にからみついていたいろんな思いが、するするとほどけていった。
- ⑮走った。どこまでも走れる気がした。
- ⑯体ごと飛びこんだ。
- ⑰体の中は、まだ、どくどく波打って走り続けている感じだ。

理由付け

【走ることへの気持ち】

- ⑨⑩⑫二人と一緒に応援してくれたから、一生懸命走ることができた。いやだったけど、すごく走って気持ちよかった。その気持ちよさが誇らしかった。
- ⑥⑦⑧→⑪⑬⑯⑰
走ることがゆううつで、体が重く感じていたけれど、二人の応援で体が軽くなって最後まで走りきることができた。だから誇らしく聞こえた。
- ⑨二人の声が背中にかぶさったから、二人が応援してくれているような気がした。だから、ほこらしかったのは、家族が仲直りして応援してくれていたことだ。
- ⑩二人の声が聞こえた瞬間、ぎゅんと足が出たから、二人の声援がのぶよの力になった。だからけんじとお母ちゃんの気持ちがほこらしかった。
- ⑥⑦⑧→⑪
これまでずっと体が重くて走れないと思っていたのに、この二人の声援で「ぎゅんと足が出た」からこの瞬間にのぶよは変わった。だから、やっぱり二人の声援があったからこそ変わったのだと思う。ほこらしく聞こえたのは、離れていたけんじと母ちゃん家族の心が一つになってのぶよに伝わったからだと思う。
- ⑫「走れ! そのまんま、走れ!」の言葉は、けんじとお母ちゃんがいっしょに言っている言葉だと思う。だから、けんかをしていた二人が仲直りをしたように感じた。それに安心したのだと思う。
- ⑬二人がいっしょに応援してくれたおかげで、家族がばらばらになっていたのが一つになっているように感じて、のぶよのおしりが軽くなった。だから、のぶよは、二人が仲直りしてすっきりした。
- ⑭からみついていたいろんな思いというのは、運動会の短距離走で、びりになることだけではなくて、家族がけんかしているのが嫌で、のぶよは仲直りをさせたいと

めざす児童の姿

- のぶよは、走ることに対する自分のゆううつな気持ちだけでなく、けんじやお母ちゃんとの関係に対する気持ちの両方で複雑な気持ちだったが、二人と一緒に応援してくれたおかげで、家族が一つになったような気がして、思いっきり走ることができた。順位よりも一生懸命走ったことや家族の心が一つになったことがほこらしかった。

【子どもの言葉】

- けんじとお母ちゃんが自分のことを思って一緒に応援してくれて、苦手な短距離走を一生懸命走ることができたから。
- 自分の家族が、仲良く応援してくれて、バラバラだった家族の心が一つになった気がしたから。

思考を形成するための手立て

- ・ これまでの「のぶよ」「けんじ」「お母ちゃん」の気持ちを整理したものを見て、考えさせる。
- ・ 自分の考えをふせんに書かせ、少人数のグループで話をさせる。
- ・ グループでの話し合いを何度も行い、いろいろな感じ方に気付かせる。

集団の思考を深めるための手立て

- ・ 何をきっかけに、のぶよが変わったのか、変わったタイミングを考えることで、「こんなにほこらしく思えた」理由を考えさせる。
- ・ のぶよの変化を、場面と場面、のぶよの気持ちとけんじ、母ちゃんの気持ちを関連付けて考えさせる。